

環境・まちづくり・防災

NPO法人グラウンドワーク西鬼怒

理事長 水谷正一
住所 〒329-1102 栃木県宇都宮市白沢町2411
電話 028-673-9766
会員数 正会員24名 賛助会員35名
法人設立年 2005年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000248>

メールアドレス nisikinu@snow.ucatv.ne.jp

ホームページ <https://gw-nishikinu.jimdofree.com/>

★ 設立の趣旨

グラウンドワーク西鬼怒は、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に、西鬼怒川地区グラウンドワーク活動センターなどを拠点とした環境に関する教育・研究・調査及び施設管理事業を行うとともに、住民・企業・行政が一体となった地域の環境改善活動や都市と農村の交流に関する事業を行い、地域の良好な自然環境の保全及び活性化に寄与します。

★ 事業の内容等

- ①自然環境保全事業
生態系保全水路の草刈りや、谷川上流保全地の草刈りなどの維持管理事業を実施しています。
- ②体験学習等による環境教育事業
田んぼの学校や探鳥会を実施しています。
- ③自然環境にかかわる調査・研究
フクロウ営巣ネットワークプロジェクトや、西鬼怒川地区の動植物や水路に自生する水草について、種の調査を実施しています。
- ④都市と農村の交流事業の企画及び支援
農業体験、灯籠流し、もちつきを実施しています。
- ⑤西鬼怒川地区グラウンドワーク活動センター及び西鬼怒公園の維持管理

★ 私たちが提供できること

①自然と農にふれる体験

当会の「田んぼの学校」では、米づくり、野菜づくり、花壇づくり、田んぼまわりの生きもの調査、源氏ボタルの鑑賞、しめ縄づくり、野鳥の観察、灯籠流し、どんど焼きなどを実施しており、体験の提供ができます。月に1回、「農と自然のめぐみ」に触れることができます。

②フクロウ営巣ネットワークの全国展開

フクロウ営巣ネットワークづくりでは栃木県から全国展開し、これまでに172か所でフクロウが産卵・繁殖しています。これらの活動で培ったノウハウを提供することができます。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

農村地域の生態系の保全、再生を目的に巣箱によるフクロウの営巣環境の創出や、地域の自然環境・生物生息場の拠点として保全され谷川上流域に位置する保全地周辺のゴミ拾いなどを行っています。

企業の従業員の方々のご協力をお願いします。是非、ホームページよりご連絡ください。



NPO法人コムラボ

理事長 山田雅俊
住所 〒326-0053 栃木県足利市伊勢町3-4-8
電話 050-3635-0326
会員数 正会員12名
法人設立年 2010年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000509>

メールアドレス contact@com-labo.com
ホームページ <https://www.com-labo.com/>
<https://ashikaga.keizai.biz/>(足利経済新聞)
<https://machinote.com/>(マチノテ)

★ 設立の趣旨

『地域の新しい「やりたい」を「できる」に変える』

「足利は何もない、つまらない」、足利に住んでいる人々はこの言葉をよく口にします。

けれど情報を発信する側になってみれば、足利には他の街にない誇れるもの、楽しいことがたくさんあることがわかります。

街をより良くしていくには、「ひと」の力が必要です。「足利には何もない」から「足利に住んで良かった」と変化する市民が1人でも多く増えることで起こる化学変化、地域の可能性を広げたいと思っています。

私たちコムラボは、地域の伝える力を広げていくことで「ちいき」と「ひと」を結びつけ、これからの右肩下りの時代に大きな変化を起こす力が生まれるよう、そんな思いの下で活動を続けています。

★ 事業の内容等

①足利経済新聞

2018年より地域メディアとして、「地域の記録」を残すこと、地域で書く人を維持・育成することを目的に、足利エリアのローカルニュースをインターネットで情報配信しています。

②マチノテ

JR足利駅から徒歩3分の場所で、シェアオフィス「マチノテ」を運営しています。創業したい方に、場所の提供だけでなく創業アドバイスも行っています。

③地域の行政・市民団体との交流、連携、協力

学童保育を運営している団体、商店街や企業などにICT技術の提供を行い、バックオフィスの支援を行っています。

★ 私たちが提供できること

①社員研修・広報支援のライター講座

地域の企業に、新卒社員を対象としたライター講座(OFF-JT)を提供した実績があります。読み手に誤解がないよう正しく書く、発言の裏取りをする、事実の確認をするといったスキルは一般業務でも必要なことです。企業や店舗へプレスリリースの書き方講座も提供できます。例えば「取材してもらえないかもしれないプレスリリースの書き方講座」です。

②IT環境整備支援

NPO法人や非営利団体向けに無料又は安価で提供されるGoogle Workspace、サイボウズ Kintoneの初期設定やレクチャーを提供した実績があります。また、Kintoneを基幹システムとした学童情報管理システムの構築と保守などを行った実績があります。これらを活かしてIT環境整備や情報セキュリティに関するアドバイスが提供できます。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみよう

地域の新しい「やりたい」を「できる」に変えていくために、情報発信(地域メディア=足利経済新聞)とハードウェア支援(シェアオフィス=マチノテ)の両面から支援を続けていきます。

コムラボは「新しいことをやりたい人」が好きです。新しいアクションや起業・創業をやりたいと考えるものの、周囲に理解されず支援も受けられない人たちに、必要だと感じてもらえる事業を展開しています。



NPO法人太平山南山麓友の会

理事長 藤野晴彦
住所 〒329-4405 栃木県栃木市太平町西山田1771-3(かかしの里内)
電話 0282-43-8288
会員数 正会員31名 賛助会員12名
法人設立年 2007年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000385>

メールアドレス kakashi-no-sato@cc9.ne.jp

ホームページ <https://www.cc9.ne.jp/~kakashi-no-sato/>

★ 設立の趣旨

栃木市太平山南山麓の自然を将来に残し、四季折々の美しい山麓、里山づくりを通して、来訪者を温かく迎えるまちづくりと地元経済の発展に寄与することを目的に、農業や工業技術、多彩な趣味を活かして活動しています。

★ 事業の内容等

①太平山南山麓周辺の緑化美化活動

②農業収穫体験

当地域の七不思議伝説にちなんで、7つの農作物のオーナー制度「おおひらの七富賜技(ななふしぎ)体験」を実施し、都市住民との交流や南山麓のトレッキングガイド、山の日記念イベント、ぶどう祭り、ぶどうの観光案内・PR、緑化美化活動などの多くのイベントを開催しています。

③太平山系トレッキング

ハイキングコースの整備のほか、毎年、春と秋に「太平山系トレッキングイベント」を開催しています。

④グリーンツーリズム

2015年よりワイン用のぶどう苗の植栽を始め、2018年に「一般酒類小売業」の免許を取得し、「山雫ワイン」販売を開始しました。太平山南山麓のぶどう畑に流れ来る山雫で育ったぶどう100%の「山雫ワイン」を拡販展開しています。

⑤かかしの里の管理運営

かかしの里では、バーベキュー施設やローラースライダーのほか、野球場・テニスコートなどのスポーツ施設、野外ステージなどもあり、子どもも大人も楽しめます。

★ 私たちが提供できること

①農産物直売所の運営

旬の野菜・ワイン・ブドウジュース・ジャムなどの販売、ワイン卸売を地元のまちづくり交流センターや栃木市アンテナショップで行っています。直売所運営のノウハウを提供できます。

②各イベントへ出店

栃木市認定まちづくり実働組織や、地元の商店街と連携し、農産物販売イベントへ出店する協働の実績があります。

③トレッキング

ハイキングコース整備を行っています。山の日(毎年8月11日)には晃石山登頂記念木札の配布を行っています。ハイキングコースの整備は栃木市観光振興課と連携して行っています。また、トレッキングガイドができます。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

①観光ぶどう園との連携や、ぶどう団地のPRにご協力ください。

②かかしの里付近へのワイナリー設立にご協力ください。



NPO法人渡良瀬エコビレッジ

理事長 町田佳子
住所 〒323-1101 栃木県栃木市藤岡町大前1729-1
電話 0282-62-2677
会員数 正会員10名 賛助会員2名 3団体
法人設立年 2007年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000371>

メールアドレス watarase-ecovillage@bz03.plala.or.jp
ブログ(CANPAN) <https://blog.canpan.info/watarase/>

Instagram



★ 設立の趣旨

古くから営まれてきた資源を大切にす循環型の暮らしを「やまずめぐる」と呼び、改めてその価値を見直しています。自然環境の保護や、里山の保全・再生・活用に向けた事業を展開しています。

健全なふるさとづくりを通じて、市民生活に不可欠な元気と活力を届ける活動を行い、公益の増進に寄与することを目的としています。

★ 事業の内容等

①循環型の暮らしの実践

衣・食・住をテーマに、40年以上にわたり、農薬や化学肥料に頼らない農業を土台とした、自然環境に適した循環型の暮らしの大切さを伝えています。

②自然に負荷をかけない農業に関する相談事業

無農薬・無化学肥料による和綿の栽培から収穫までを実施しています。「しあわせのコットンボール」として、2007年に多くの方々の協力のもと、日本で初めて無農薬の和綿から作られたTシャツが完成しました。現在も繊維・アパレルメーカーと連携し、栽培を継続しています。

③里山づくり

栃木市内にある里山の周辺環境整備や、ツリーハウスの設置を行い、「とちぎの元気な森づくり」の県民税事業の支援のもと、里山の保全・活用に取り組んでいます。

★ 私たちが提供できること

①農作業の体験型イベントの実施

循環型の農業を通じた持続可能な暮らしを学ぶための体験型イベントを企画開催できます。

②和綿の栽培体験を通じた社員研修

国内での栽培自給率がほぼ0%の和綿の継承に取り組み、繊維・アパレルメーカー3社と取引しながら、その栽培を守っています。企業の社員研修の一環として、和綿の栽培体験も実施しています。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

①体験型イベントの参加をきっかけに、皆様が循環型の暮らしに触れ、興味を持っていただけたら嬉しく思います。例年11月には収穫祭を開催し、無農薬のもち米を石臼でついて作る玄米餅や、旬の野菜のごはんなどを楽しみに参加される方も多くいらっしゃいます。

②和綿は、種まきから収穫、紡ぎまでを体験できます。和綿を通して、「衣」もまた地球の大切な資源であると感じられると思います。この場所には、「衣」は和綿、「食」は無農薬農産物、「住」はすべて土に還る材料を使って伝統工法で建てた家屋があります。衣・食・住を一体で体験できますので、企業の研修をはじめ、服飾を学ぶ学生、小学校・中学校の課外活動の学びの場として活用いただけたらと思います。興味のある方はぜひ一度お越しください。

③今後は、これまでに収穫した綿の在庫がありますので、小ロットで綿を製品化できる企業や団体などと連携し、例えば地元産和綿で作る赤ちゃん用のおくるみなど、オリジナル製品づくりにつなげていきたいと考えています。



NPO法人エコロジーオンライン

理事長 上岡裕
住所 〒327-0832 栃木県佐野市植上町1331-6
電話 0283-23-9758
会員数 正会員21名 企業会員7社
法人設立年 2000年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000038>

メールアドレス info@eco-online.org

ホームページ <https://www.eco-online.org/>

Facebook



Instagram



X



★ 設立の趣旨

一般の人々に対して、健全な市民生活に不可欠な環境情報を提供するとともに、芸術、国際交流を通じた持続可能な社会の実現を目指します。また、一人ひとりが自立的な健康管理ができるよう、その知識の普及に関する事業を行います。

★ 事業の内容等

- ①自然との触れ合いを通じた健康増進支援
生物多様性を守る取組みで整備した里山を活用して、健康増進活動を実践していきます。
- ②持続可能な社会づくり
世界のエフエムラジオと連携して、SDGsの情報の発信をしています。
- ③芸術活動を通じたまちづくり事業
医療現場と音楽レーベルの協力を得て、「音楽と認知症全国ネットワーク」を設立。音楽の力を活かした認知症ケアや予防に関する実践を全国の医療・介護関係者と共有・保存しています。
- ④途上国における環境改善事業
マダガスカルにおいて、エネルギー環境の改善を目的に、バイオガス施設の設置支援などの活動を行っています。
- ⑤里山再生活動
他団体と協働して里山の再生活動に取り組むとともに、日本産木材の活用促進を目的に、

能登ヒバを使った楽器づくりのプロジェクトを支援しています。

★ 私たちが提供できること

①気候変動を中心とした環境問題への取組み

気候変動などの環境問題はエコロジーオンラインの中核事業です。これまで、坂本龍一さんのラジオ番組などで気候変動について語り合い、情報発信をしてきました。2025年からRADIO BERRY(エフエム栃木)・宇都宮大学高橋若菜研究室と三者共同で「カーボンニュートラル ACTION!」を栃木から発信。温暖化にアジャストした取組みを、ラジオやインターネット、地域連携を通じて伝えていきます。企業等に対しては、気候変動対策や脱炭素に関する情報発信・企画協力など、環境分野の知見を活かした支援が可能です。

②企業・団体などの環境コミュニケーション支援

環境に関する情報を社会と共有し、理解と協力を促すことは、課題解決に欠かせない手段です。企業・団体の特性を活かした環境への取組み、環境コミュニケーションを提案し支援します。

③気候変動やSDGsに関する講演・執筆

環境やSDGsに関する知見を活かし、講演や執筆活動を通じて持続可能な社会づくりの意義や取り組み方を伝えています。自治体・企業など多彩な場で実績があります。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

①当法人は、これまで環境破壊や地球温暖化の防止に取り組んできました。これからも企業や団体と連携しながら、森林再生、省エネルギー、再生可能エネルギー、生物多様性、里山再生、まちづくりなど、幅広いテーマでプロジェクトを展開していきたいと思えます。

環境保全の基金として始めた、全国の幼稚園・保育園に太陽光発電設備を寄贈する「そらべあ基金」は、当法人が発起人の一員として立ち上げに関わった成功事例です。

②代表の上岡裕は、認知症介護や高次脳機能障害の経験をきっかけに、東京大学熊谷研究室での当事者研究に携わっています。障がいのある方や働きづらさを抱える方と意見を交わしながら、誰もが働きやすい社会の実現に向けた提言を行っています。こうした提言を実践するため、現在は、障がいをもった人たちとAIでアニメを制作しています。

環境だけでなく福祉や国際協力など多様なSDGsの課題に、いろいろな主体と連携しながら、環境と生命を守る活動をさらに広げていきたいと思えます。



NPO法人足尾に緑を育てる会

会長 齊藤正三
住所 〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原2-9
電話 0288-93-2180
会員数 正会員44名 賛助会員個人100名 13団体 活動会員70名
法人設立年 2002年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000099>

メールアドレス home@ashiomidori.com

ホームページ <https://ashiomidori.jimdoweb.com/>

★ 設立の趣旨

煙害で荒廃した足尾の山の緑化活動を通じて、水循環系を中心とした環境問題に取り組むとともに、渡良瀬川源流地域の問題を考え、自然環境の健全化並びに地域社会の伸展に貢献することを目的とします。

★ 事業の内容等

①植樹地の維持管理

栃木県、日光市などの行政、NPO法人、CSR活動を行う企業とのネットワークで、植樹地の維持管理を行っています。国土交通省関東地方整備局渡良瀬川河川事務所、栃木県、林野庁からの植樹委託による山腹工事・食害対策をしています。

②渡良瀬川源流域の緑化事業及び児童生徒の植樹活動への支援

これまで、延べ23万人以上の方に31万本以上の木を植えていただいています。栃木県と連携して植樹地基盤整備を行い、非鉄金属・産業機械メーカーの足尾事務所からは社有地提供を受けるなど、連携・協働をしています。

③足尾環境学習センターの管理運営

日光市の指定管理を受け、足尾の歴史や環境について学べるミニ博物館を運営しています。

④年間イベントの実施

春の植樹デー(4月、5月)は、参加者が年々増え、令和7年は約4,205本の苗木が植えられました。また、夏の草刈デー(7月)として苗木の周囲の除草や生育状況の観察などを行うほか、3月～11月の毎月第3土曜日・日曜日には雑草などの草抜きを中心とした作業デーも開催しています。

★ 私たちが提供できること

①植樹イベントスタッフの受け入れができます。

②環境学習としての植樹体験の提供
環境学習の一環として植樹体験の受け入れができます。

③CSR活動としての植樹
CSR活動としての植樹活動の受け入れができます。

④体験型環境学習と気候変動教育
足尾での体験型環境学習を通しての気候変動対策に関する教育の提供ができます。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

体験型環境学習コンテンツの活用により、インバウンドも含めた観光資源の活用を一緒に考えてみませんか。



NPO法人クロスアクション

代表理事 高橋誠一
住所 〒321-0628 栃木県那須烏山市金井2-23-15
電話 090-3109-1784
会員数 正会員19名
法人設立年 2017年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000775>

メールアドレス crossaction.0523@gmail.com

Facebook



Instagram



★ 設立の趣旨

那須烏山市をはじめとする八溝地域での地域間交流や市内団体による企画開催などの事業を通して、地域内に住む人の郷土愛と観光客の地域への愛着を育むことによって社会参画意識を醸成し、市民主体の持続可能なまちづくりの推進に寄与することを目指しています。

★ 事業の内容等

①地域づくり団体や教育機関についての相談・支援

様々な市民団体のプロジェクト企画に寄り添い、協働を行っています。CrowLounge(クローラウンジ)では、市内で動き出した魅力ある活動にフォーカスし、地域づくりの関心層との交流機会を創出するとともに、間接的に支援を行っています。その他、地域おこし協力隊支援事業や企業の魅力発信事業などを行っています。

②施設管理業務

烏山駅前合同タクシーの2階を借り受け、コワーキング、コミュニケーションスペース「ぱらっと」として貸し出し、つながり創出の場として貢献しています。

③地域の人的・物的資源を活かした企画運営

市民ワークショップ企画運営事業、都市農村交流事業を進めています。設立以来、知見を蓄積しながら着実に進めています。

★ 私たちが提供できること

- ①ファシリテーターの派遣やワークショップの企画・コーディネートができます。
- ②講師派遣
地域づくりの実践経験をもとに、講師派遣が可能です。地域貢献を考える企業に対して、情報提供も行っています。
- ③地域づくりの企画・事業化支援
地域づくりの企画提案や、都市と農村の交流に関する知見を活かした助言、事業化支援を行えます。
- ④地域づくりネットワークによる支援
地域づくりに関わる団体や事業関係者とのネットワークを活用し、地域づくりに参加したい方への助言や支援、関係者の仲介、紹介が可能です。
- ⑤交流スペースの貸し出し
地域活動や打ち合わせなどに利用できる交流スペースの貸し出しを行っています。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

- ①現在、那須烏山市の「関係人口」を創出するためのプラットフォームを、市や有志企業とともに立ち上げています。
この取り組みでは、那須烏山市の自然・歴史・文化といった地域資源に触れる機会をつくり、地元企業と連携した体験型・交流型プロジェクトを展開していきます。
各企業の強みやノウハウを活かした企画を通じて、参加者に企業の魅力を感じてもらい、他地域の人たちとのつながりを生み出すことを目指します。
- ②ご参加いただきたい皆様へ
「自社の成長につなげたい」、「地域の活性化に貢献したい」
そう考える企業・団体の皆様と、丁寧に、一步一步、着実にプロジェクトを育てていきたいと考えています。一緒に那須烏山市の未来をつくっていきましょう。
ご関心のある方は、ぜひご参加ください。



NPO法人民間稲作研究所

理事長 館野廣幸
住所 〒329-0526 栃木県上三川町鞘堂72
電話 0285-53-1133
会員数 正会員146名
法人設立年 2000年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000040>

メールアドレス info@inasaku.org

ホームページ <https://www.inasaku.org/>

YouTube <https://www.youtube.com/channel/UCI8XKrOaOfOGFIT5fq9vRFA>

★ 設立の趣旨

民間稲作研究所では、化学合成した農薬や化学肥料を一切使わずに、自然環境を活かし利用することで、日本の主食である米を効率よく生産する方法を研究しています。この農法が広まることで、人類と自然が共存する新しい環境が創造される社会に貢献することができますと考えます。事業理念は「地域循環型有機農業ですべてのいのちと共生する持続可能な社会の実現」です。

★ 事業の内容等

- ①省資源・環境保全型農業及び健康食・食生活の改善に関する研究・技術開発
地域環境保全型有機農業の技術開発と、循環型有機農業経営管理技術の研究開発を行っています。
- ②環境保全に関する普及啓発活動及び技術普及・研究成果の実行
環境保全に関する記録集の作成、イベント(研究集会・シンポジウム・セミナー・勉強会・見学会など)の開催、有機農業技術支援センターでの集会や公開シンポジウムの実施を通じて、環境保全型農業の普及啓発と研究成果の実行を推進しています。
- ③環境保全型農業の国際交流に関する事業
JICA事業やアジア学院留学生への特別講義などを通じて、環境保全型農業の国際交流を推進しています。
- ④後継者の育成に関する事業
有機農業を志す人々・大学生・技術指導者向けの継続的な有機農業技術研修を行っており、後継者の育成に貢献しています。
- ⑤環境保全型稲作に関する啓蒙活動

農業機材・資材の生産並びに有機農業に関する書籍などの出版販売を行っています。

★ 私たちが提供できること

- ①有機稲作技術の学習支援
過去に開催してきた有機稲作技術研修会や、公開シンポジウムの記録動画を作成しています。はじめて有機稲作に取り組まれる方へのDVDや書籍案内、動画配信を提供できます。
- ②農産物の品質・安全性検査
収穫した農産物(米麦、野菜など)の放射能濃度検査や、玄米の食味検査が可能です。
- ③有機農業の技術普及支援
稲作技術、有機農業を普及させるための資材や農業用機械器具の情報提供が可能です。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみよう

有機農産物を積極的に取り入れたオーガニック給食を広げるために、有機稲作栽培技術を普及させ、開発を進める活動をしています。また、有機農産物が子どもたちの未来に大切であるという理解を広めたいと思っています。こうしたことに興味のある企業及び自治体の皆様と一緒に連携して活動していきたいと考えています。



NPO法人トチギ環境未来基地

理事長 塚本竜也
住所 〒321-4104 栃木県芳賀郡益子町大沢2584-1(明在庵内)
電話 0285-81-5373
会員数 正会員28名
法人設立年 2010年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000516>

メールアドレス tochigi@conservation-corps.jp

ホームページ <https://www.tochigi-cc.org/>

Facebook



Instagram



★ 設立の趣旨

トチギ環境未来基地は、若者を中心として森づくり活動を行う団体です。活動を通して、私たちの身の回りの「緑」と、活動に関わる「人」を育みます。

★ 事業の内容等

① Conservation Corps プログラム(長期合宿型環境保全プログラム)

3か月間の合宿型環境保全プログラムにより、日本や世界の環境を守ることができるリーダーを育みます。

② ボランティアによる地域の森づくりや自然環境保全

年間延べ1,300人が参加。「森のようちえん」の森(茂木町)、「里山と食卓を結ぶわたね」の森(市貝町)、「都市農村交流拠点」の森(那珂川町)、使われなくなった農地の荒れた竹林(茂木町)など。

③ 農村づくり活動サポート事業

地域の困りごとやお悩みを住民や地域外の人々など、みんなで一緒になって課題解決を考えます。

④ 苗木forいわきプロジェクト

東日本大震災で津波被害を受けた、福島県いわき市の海岸林再生事業です。

⑤ 若者自立支援団体との連携による森づくり事業

社会へなかなか踏み出せずにいる若者との森づくり活動です。短期合宿の受け入れや森

林ボランティア活動を行います。

★ 私たちが提供できること

① 社員参加型里山づくり活動コーディネート(社会貢献活動、新入社員研修)

荒れた里山や竹林の整備活動、植樹活動を社員の皆さんと一緒にに行います。環境を自分たちの手でよくするを通して、社会貢献とは何か実際に感じる、団体のチームワークを高める、地域の声やニーズを実際に聴くなど個人を見つめることができます。

② 里山保全活動を始めたい団体向けの研修やアドバイスの実施

新しく活動を始めたい人や企業を含めた団体のサポートも行います。企業とのこれまでの協働事例として、外資系ファッションブランド、IT企業、製薬メーカー、化学メーカー、建設機械メーカー、各労働組合などと里山保全活動を行っています。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみよう

① 里山ボランティア活動の実施。里山資源(木や竹)を活かした製品・商品の開発や、地球温暖化防止のための炭づくりプロジェクトを進めたいと考えています。

② ボランティア活動だけではなく、ご希望に合わせてイベント出展や子どもの自然体験活動の企画運営も可能です。

例として、マルシェや地域のお祭りへの木工クラフトブースの出展、里山を舞台とした自然体験活動の企画運営、大学生のサークル合宿プログラムの企画運営などが可能です。



NPO法人オオタカ保護基金

代表 遠藤孝一
住所 〒321-3423 栃木県芳賀郡市貝町大字市埜720-3
電話 070-5072-2848 (火・木曜日13:00~18:00)
会員数 正会員19名 賛助会員261名
法人設立年 2002年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000111>

メールアドレス goshawk@sea.ucatv.ne.jp (オオタカ保護基金)
sashiba.natureschool@gmail.com (サシバの里自然学校)
ホームページ <http://goshawkfund.jp/> (オオタカ保護基金)
<https://www.sashiba-ns.com/> (サシバの里自然学校)

Facebook
(オオタカ保護基金)



Facebook
(サシバの里自然学校)



★ 設立の趣旨

1989年から総合的な保護活動を開始しました。絶滅危惧種で、食物連鎖の頂点に位置するワシ・タカ類の調査研究、保護、政策提言、普及教育、里山保全と環境教育の拠点施設である「サシバの里自然学校」の運営などを通じて、生物多様性の保全、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに貢献することを目的に活動を行っています。

★ 事業の内容等

①調査研究

栃木県那須野が原でオオタカの生態調査(1992年~)、栃木県市貝町でサシバの生態調査(2002年~)を継続するとともに、結果を論文として学術研究誌に多数発表し、それらをもとに、2008年に「オオタカの生態と保全」を発売しています。

②保護活動

2002年に栃木県那須町の民有林1haを取得し、トラストによる生息環境の保護活動「ワシ・タカの森トラスト」を開始しました。現在まで、取得や契約・協定などによって、クマタカ・オオタカ・サシバを対象に約200haのトラスト地を確保して、生息地を保全しています。また、オオタカやサシバの生息しやすい森づくりや里山づくりを実践しています。

③政策提言

1996年に環境庁(当時)「猛禽類保護の進め方」、2010年に林野庁「オオタカモデル森林」の策定などに協力しています。2010年に市貝町に対して人と自然が共生する「サシバのさとづくり」を提言し、その後2014年並びに2019年に基本構想などの策定に協力するとともに、町と協働してその実現に取り組みました。2019年に市貝町にて第1回「国際サシバサミット」を町などと開催しています。

④普及教育活動

2006年にDVD「里山の猛きんオオタカ」制作、2012年に写真集「サシバの里物語」を発売。2016年に市貝町に、里山保全と環境教育を目的とした「サシバの里自然学校」を設立。現在、年間延べ約1200人以上が利用する自然体験施設となりました。

★ 私たちが提供できること

①生態系調査と保全計画

ワシ・タカ類を中心とした生態系の調査とそれを踏まえた保全計画や地域づくりの策定(実績:日光森林管理署・塩那森林管理署・市貝町など)

②自然共生に関する講演・研修

ワシ・タカ類や野鳥の生態・保全、人と自然が共生する地域づくりなどに関する講演や研修(実績:日本動物園水族館協会・宇都宮市環境学習センターなど)

③森づくり体験・里山保全活動の提供

植林・育林など森づくり体験や里山保全活動(実績:鉄道関連企業やタイヤメーカーなど)

④自然体験の実施

里山での自然体験・生きもの観察・農林業体験(実績:保育園・幼稚園・小学校・一般など)

★ 企業や他の団体と一緒にやってみよう

①大学等との共同研究

共同研究を行いたいです。例えば、2025年度からサシバのみならず、それを支える生態系の研究を新潟大学などと一緒に実施しています。サシバは、里山に生息して様々な生物を捕食することから、里山の生物多様性の指標となると言われていますが、それを実証した研究はありません。そこで今回、栃木県東部の広い範囲を調査区域とし、その中のサシバの生息地の分布に加え、様々な動植物の分布や数を把握し、その関係性を明らかにします。

②企業等と連携した里山保全活動

2025年度後半から、新たに県内に工場がある企業と、里山の保全や管理の活動を始めます。オオタカ保護基金が管理する市貝町内のトラスト地(協定地)は、約11haあります。拠点施設としてサシバの里自然学校もあることから、ここを利用して様々な活動を行うことができます。

③サシバの里山こども園

幼児施設向け里山自然体験プログラムです。多くの子どもたちへ里山での自然体験の機会を提供したく企画しました。日帰り遠足、お泊まり保育の日中活動、園外保育へお出かけの際に、サシバの里自然学校を利用できます。オーダーメイド型ですので、クラスの人数・規模・年齢にあわせて実施可能です。



NPO法人みぶまち地域活性化21

代表理事 鯉沼玲子
住所 〒321-0217 栃木県壬生町至宝1-3-34
会員数 正会員29名
法人設立年 2020年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)
<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000854>



★ 設立の趣旨

地域が抱える課題などに地域住民、町民活動団体、行政、企業と協働で取り組み、壬生町すべての人々が笑顔・元気で心豊かに暮らし、持続可能なまちづくりの実現に寄与することを目的として活動しています。

★ 事業の内容等

- ①町民活動に関する情報の収集と提供
- ②町民活動に関する相談支援、活動促進のための調整
- ③町民活動に関する研修、人材育成
協働の講座や、まちづくり勉強会を行っています。
- ④地域住民、町民活動団体、行政、企業との協働の促進や支援
きのこ教室・サツマイモ苗植え付け及び収穫事業、味噌づくり教室事業などの地場に根差した事業や、使用済切手を活用した海外支援事業、壬生の日PR、壬生町ゆうがおマラソン大会のほか、子どもの見守りなども行っています。
- ⑤町民活動に関する施設管理運営
相談・支援センターの運営をしています。

★ 私たちが提供できること

- ①地域イベントでの協働
地域イベントに協力することができます。これまでの協働事例として、壬生町ゆうがおマラソン大会における参加者へのおもてなし及び情報発信があります。
- ②子ども支援
コロナ禍における子どもたちへの居場所づくり、食糧支援活動を行っています。子ども支援の活動で協力できます。
- ③地縁組織との協働による青少年育成
地縁組織(自治会)と協働して、青少年健全育成事業(サツマイモ事業)への参画をしています。青少年育成に協力できます。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

「おもちゃのまち」という夢のある地域名を生かして、まちづくりを行いたいと思います。地域住民のための子育て支援活動と一緒に取り組みませんか。



NPO法人くまの木里の暮らし

理事長 手塚功
住所 〒329-2213 栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木802
電話 0287-45-0061
会員数 正会員28名 賛助会員5名
法人設立年 2001年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000086>

メールアドレス info@kumanoki.or.jp

ホームページ <https://kumanoki.jimdofree.com>

<https://www.shioya-kumanoki.com> (星ふる学校「くまの木」)

Facebook
(星ふる学校「くまの木」)



Instagram
(星ふる学校「くまの木」)



★ 設立の趣旨

次世代につながる魅力ある地域づくりに寄与することを目的として、星ふる学校「くまの木」(正式名称:塩谷町やすらぎの体験交流施設※)の管理・運営をはじめとして、地域の資源や農山村の自然環境を活用した体験交流事業、農山村の振興に関する事業を行っています。

※塩谷町より管理運営を委託されている宿泊可能な体験交流施設です。明治7年の開校以降、平成11年に閉校するまで、2,888人の卒業生を送り出した塩谷町立熊ノ木小学校の校舎を活用しています。

★ 事業の内容等

- ①地域資源や農山村の環境を活用した体験活動などを企画・実施
星ふる学校「くまの木」及びその周辺地域を活用した体験プログラム、アクティビティ、イベントなどの企画・提案・実施・サポートなどを行っています。
- ②地域資源や農山村の環境を活用した宿泊施設管理運営及び食事提供
星ふる学校「くまの木」の管理運営と、同施設の食堂で地元の食材を活用した飲食提供を行っています。
- ③人と自然を大切に育てる子どもを育てる事業
地元小学校と連携し、教育活動の中での体験プログラムを実施しています。
- ④里地・里山の整備・保全
星ふる学校「くまの木」校内ビオトープや周辺の田畑などの活用を通じて、施設周辺の景

観や環境を保全しています。

- ⑤農山村地域の振興等にかかる各種実践及び調査・研究、普及・啓発
自治体や関連団体との連携・協力によるイベントの実施に加え、当法人の取組みに関する視察への対応なども行っています。

★ 私たちが提供できること

- ①廃校を活用した宿泊型体験施設
廃校を利用した宿泊型体験交流施設の管理運営で20年以上の実績があります。また、農山村地域の振興に関わる事業や里山の資源を生かした体験プログラムを展開しています。
- ②里地・里山の保全にかかるボランティア活動
遊休農地を利用した農の体験やビオトープの整備といった環境保全活動を通じて、自然豊かな未来の暮らしを考える機会を提供しています。環境保全意識を高めるだけでなく、福利厚生プログラムとしてもご利用いただけます。
- ③里地・里山の環境に関連した実験、試行など
塩谷町熊ノ木地区の水資源や森林資源を活用した新たな技術の実証実験や試行などで、協働の可能性があります。当施設は、こうした実験に適した環境を備えており、常駐職員による簡易な調査やモニタリングの補助も可能です。また、農業技術の実証や「食」に関する取組みにおいても、協働を積極的に進めていきたいと考えています。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

豊かな自然に囲まれた当施設は、校庭そして体験室や宿泊棟などのハード面が整っており、更なる発展の可能性を秘めています。企業や団体との連携で、農村地域の魅力を活かした新たなサービスや新たな体験プログラムの創出に取り組んでみたいのです。

また、企業などの研修やブレインストーミングの場としての活用も想定しています。様々な学びの場、創造的な場として、活用の幅を広げていきたいと思っております。



NPO法人栃木県防災士会

理事長 稲葉茂
住所 〒329-3215 栃木県那須町大字寺子乙2548-52
電話 0287-72-0114
担当者連絡先 028-636-0771 (東亜サーベイ(株)内 田崎)
会員数 正会員218名 賛助会員1名 7団体
法人設立年 2012年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)

<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000618>

メールアドレス info@bousaishi-tochigi.org

ホームページ <https://bousaishi-tochigi.org/>

★ 設立の趣旨

栃木県防災士会は、2007年の任意団体設立以来「自助」「共助」「公助」の理念の元、幅広い防災啓発活動を県内で実施しており、栃木県並びに県下25市町からの要請対応や教育機関・報道関係含む各種団体などとの連携を通して、災害に強い安全で誰にでもやさしく安心できるまちづくりを目指し、全県域で活動しています。平常時には、防災・減災に関わる地域防災力向上のための事業、災害時には、被災地支援活動に関する事業やボランティア活動を行い、より安全で安心な地域社会の実現に寄与することを目的とします。

★ 事業の内容等

- ①県と市町の総合防災訓練
防災クイズや液状化模擬実験パネル展示などを行っています。
- ②町の防災訓練、消防フェアなどへの参加
- ③自主防災組織リーダー研修会はじめ各種団体への支援
防災講演や避難所運営ゲーム(HUG)訓練、災害図上訓練(DIG)などを実施しています。
- ④連携協定締結
作新学院大学、NHK宇都宮放送局、宇都宮大学地域デザイン学部と連携協定を締結。
- ⑤栃木県地区防災計画策定促進支援事業(2019年～)
- ⑥各市町からの要請による地区防災計画策定支援(2021年～)
- ⑦県民の日イベント(防災・減災フェア)への参加(2023年～)

★ 私たちが提供できること

「自宅」「職場」「地域」の3分野について、防災・減災への取り組みや安全対策の一例を提案することができます。

①自宅の安全について、まず我が家の安全を図ることを提案しています。家の地盤や耐震性の確認、耐震補強、家具固定、備蓄品の用意、家族の安否確認方法の周知、避難所や避難路の確認、また風水害に対しては排水溝や側溝の清掃、雨戸の確認、土のうや水のうの準備など、事前に備えることで被害を軽減(減災)、地域の安全確保にもつながります。「自分の身は自分で守る」ためにも、自宅対策から始めることを提案しています。

②職場の安全については、建物の耐震性など自宅対策と同様の安全対策を講じるとともに、災害に備えた災害対応マニュアル、BCP(事業継続計画)の立案など、対処すべき多くの事案の一部を担えます。

③地域の安全については、地区防災計画策定支援を通して、防災・減災に対応する仕組みやボランティア・組織などを有機的に結び付け、住民同士の連携に一定のリーダーシップを発揮することで、地域社会へ貢献しています。

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

①企業の防災力強化への支援
栃木県防災士会では企業の防災強化にご協力できます。あらかじめ防災対策を講じることによって被害を大きく軽減することが可能になり、BCPの一翼を担うことができます。

②地域・職場での防災計画策定
栃木県防災士会は、平常時の防災意識の啓発、自主防災組織や職場での地区防災計画策定促進支援のための基本ノウハウを有しており、計画の立案、訓練の実施、見直しに、当該主体者とともに取り組みたいと考えています。

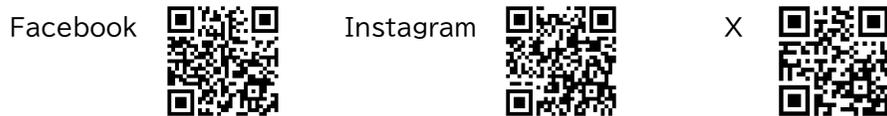


NPO法人那須高原自然学校

理事長 真山高士
住所 〒325-0301 栃木県那須郡那須町大字湯本字ツムジヶ平213-1001
電話 080-9656-3711
会員数 正会員14名
法人設立年 2007年

事業報告等(内閣府NPO法人ポータルサイト)
<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/009000388>

メールアドレス info@go-and-joy.com
ホームページ <https://go-and-joy.com/>



★ 設立の趣旨

子どもから大人まで幅広い年代の人に対して、自然環境及び環境教育に関する事業を行います。子どもの健全な育成と、自然環境の保全、良好な社会環境の確保に寄与します。

★ 事業の内容等

①自然体験活動

「自然が教室、自然が教科書、自然が先生」をモットーに、四季を通じた様々な自然体験活動を実施しています。宿泊や日帰りのキャンプ体験・工作体験・川遊び・スキーや雪遊び・ツリークライミング体験会・イベント出展などを行っています。その他、主催事業だけでなく受託事業も行い、多くのニーズに応えるプログラムを企画立案しています。

②自然体験活動指導者養成

自然体験活動指導者として、講習会や講義で講演しています。栃木県シルバー大学のふるさとふれあい学科非常勤講師のほか、キャンプファイヤー講師・リスクマネジメント講師・ツリークライミングインストラクターを務めています。

③環境教育

チームビルディングに関するプログラム指導や生き物探し、登山ガイドを行っています。

④那須高原ビジターセンター管理運営

環境省直轄のビジターセンターの管理運営や、プログラム実施・企画展示・イベント出展・広報宣伝などを行っています。(2017年～現在)

⑤キッズネイチャーフェス

「とちぎ子ども自然体験活動ネットワーク」参加団体として、春と秋に子どもたちに自然体

験ができるイベントを実施しています。

★ 私たちが提供できること

①体験イベント実施

企業のイベントと連携し、プログラムを実施することにより自然に触れ合う機会を提供します。(実施例:アウトドアショップでの体験イベント、駅構内での体験イベントなど)

②企業研修

チームビルディングやキャンプなどを通して、企業の社員の研修や交流の機会を提供します。(実施例:社員研修プログラム、社員交流プログラム、Leave No Traceワークショップなど)

③環境保全プログラム

企業のボランティアを受け入れ、日光国立公園内の特定外来生物駆除活動を実施しています。また、企業の支援をいただき森林整備を実施しています。(実施例:オオハンゴンソウ駆除活動、ツツジが育つ明るい森づくりなど)

④体験格差に対する取組み

様々な事情で自然体験活動ができない子どもたちに対して体験の機会を提供するとともに、子どもたちの健全な育成に関わる取組みをしています。(実施例:子ども支援団体との連携、フリースクールとの連携、子ども食堂との連携、特別支援学級との連携など)

★ 企業や他の団体と一緒にやってみたいこと

自然環境や子どもたちの周りの環境は目まぐるしく変化しています。その中で、子どもたちを支える体制は1団体では難しい時代になってきました。

私たちは自然体験活動のプロとして、自然の知識や経験、安全管理を有しておりますが、他団体の得意な分野と掛け合わせることで「すべての子どもたちに自然体験を届ける」ことができます。また、その子どもたちの経験は自然を愛する気持ちを育むことにつながり、今ある自然を後世に手渡していくための大切な時間となります。

心を育み、自然を守る活動を一緒にやりましょう!!!

